

■耐震強度検討書(アンカーボルト)

1.機種 = **スリムER 室外ユニット**

2.形名 = **PUZ-ERMP280KA-A**

3.機器諸元(下記参照)

- (1) 機器質量(運転質量) $w = 117$ kg
- (2) アンカーボルト
 - ① 総本数 $N = 4$ 本
 - ② サイズ・形状 $= M 10$ 形
 - ③ 1本当たりの軸断面積(呼径による断面積) $A = 78$ mm² = 78×10^{-6} m²
 - ④ 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 $N_t = 2$ 本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ $H_g = 592$ mm = 0.592 m
- (4) 検討する方向からみたボルトスパン $L = 370$ mm = 0.370 m
- (5) 検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 $L_g = 167$ mm ($L_g \leq L/2$) = 0.167 m

4.検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度 設計用標準震度 $K_s = 1.0$ $K_h = Z \cdot K_s = 1.0$
 地域係数 $Z = 1.0$
- (2) 設計用鉛直震度 $K_v = K_h / 2 = 0.5$
- (3) 設計用水平地震力 $F_h = K_h \cdot w \cdot 9.8 = 1146.6$ N
- (4) 設計用鉛直地震力 $F_v = K_v \cdot w \cdot 9.8 = 573.3$ N
- (5) アンカーボルトの引抜力 $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (w \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 787.9$ N
- (6) アンカーボルトのせん断力 $Q = F_h / N = 286.7$ N
- (7) アンカーボルトに生ずる応力度
 - ① 引張応力度 $\sigma = R_b / A = 10.1$ MPa ボルト(SS400)の許容引張応力 f_t
 - ② せん断応力度 $\tau = Q / A = 3.7$ MPa ボルト(SS400)の許容せん断応力 f_s
 - ③ 引張とせん断を同時に受ける場合 $f_{ts}' = 1.4f_t - 1.6\tau = 240.5$ MPa
 ただし、 $f_{ts}' \leq f_t$ のとき $f_{ts} = f_{ts}'$, $f_{ts}' > f_t$ のとき $f_{ts} = f_t$ であるので $f_{ts} = 176.0$ MPa
 $\sigma = 10.1$ MPa < $f_{ts} = 176.0$ MPa
- (8) アンカーボルトの施工法
 - ① アンカーボルトの施工法 = **あと施工接着系アンカー**
 - ② コンクリートの厚さ = 120 mm = 0.120 m
 - ③ ボルトの埋込長さ = 80 mm = 0.080 m
 - ④ 許容引抜荷重 $T_a = 7600$ N > $R_b = 787.9$ N

以上の検討結果によりアンカーボルトは十分なる強度を有する。

*ボルトの許容応力度およびアンカーボルトの引張許容引抜荷重は、『建築設備耐震設計・施工指針2014年度版』による。

